

第1回 『福岡市立霊園における合葬墓等構想委員会』 議事要旨**1 日時・場所**

平成29年7月25日（火）15:00～17:00
福岡市役所15階1505会議室

2 出席者

（委員）

愛智委員，朝廣委員，小谷委員，白川委員，八島委員

（その他）

本市関係課，事務局及び関係者

（傍聴人）

なし

3 議題

福岡市立霊園における合葬墓等構想について

- ・ 検討の背景
- ・ 市立霊園の現状
- ・ 市立霊園を取り巻く課題の整理
- ・ 新たな形態の墓地の状況
- ・ 今後の市立霊園の整備・運営の基本的な方向性

4 要旨

- ①九州・福岡独自の文化や風土・死生観を踏まえつつ，合葬墓等の新たな墓地の形態を検討していく必要がある。
- ②日本全体の終活マーケットにおけるニーズ等を把握した上で合葬墓等の検討をしていく必要がある。（老後の介護や死後の埋葬・供養を子や孫に頼らない時代の到来）
- ③公共の墓地の担う役割として，これまでの墓とは違う，承継を必要としない新しい墓のあり方を，様々な市民を想定しながら，検討していく必要がある。（単身者・子や孫のいない人・子や孫がいても墓を継がせたくない人など）

5 主な発言

検討の背景について

- ・「継承」ではなく「承継」という言葉が使われているが法律の用語か？
→福岡市の条例で定義している。
→民法 897 条で使用されている言葉
- ・特殊な用語が多いので、用語の定義をした方が良い（承継，カロート等）。
- ・子どもの有無で墓が持てる持てないといった不平等が起きる社会はおかしいのではと思う。
- ・九州は墓に対して独自の文化や風土があるので，東京とは違うお墓にして良いだろう。
- ・福岡市だけのニーズだけでなく，全国的なニーズをとらえる必要がある
- ・今後「福岡市の終活は魅力があるので福岡市で最期を終わりたい」といった考え方も出てくることもあり得ると思う。
- ・お墓を大事にするのは，残された子孫がいる場合で，これから問題になる「残された人がいない人が増えてくること」を自治体は考えないといけない。
- ・福岡市だけでなく，日本全体の終活マーケットを考えたほうがよい。

市立霊園の現状

- ・アンケートをとっているが，回答した市民が，合葬墓と納骨堂や永代供養などの区別ができていないか疑問である。
- ・アンケートにもあるように「子どもに頼めない」という人が多い。
- ・市内でも3霊園がある中，地域ごとに人口の推移やライフスタイルの違いがあることを分かっている必要がある。
- ・遺骨を自宅に置いている人（墓に入れることができない人）の統計があるか。かなり多いと思われる。
- ・アンケートの二次データは扱いにくい。
- ・アンケートを引用する場合は，どういった方を対象にしたかなどを明確にする必要がある。

市立霊園を取り巻く課題の整理

- ・気を付けないといけないのが行旅死亡人や身寄りがない人の遺骨と，継承を前提としない墓ということで申し込んだ人の遺骨を，どう区別するかである。
- ・民間の動向を踏まえ，公共の霊園の役割として何を果たすべきか，を整理する必要がある。
- ・最近よく「物の消費ではなく，事の消費」と言われているが，お墓というものの自体の消費ではなくて，日常生活や慣習，イベント等との関連性をもたせ，市民に共感できる霊園を目指してはどうか。

新たな形態の墓地の状況

- ・「納骨堂」と「合葬墓」はどう違うのか。その違いを明確にして市民に説明する必要がある。
- ・「合葬墓」という言葉を使うのがいいか分からないが、今回検討するお墓は「承継を前提としないお墓」であり、その形が合葬なのか、モニュメントの下にみんなで並べるのか、個別の納骨堂なのか、あるいは期限を切ったレンタルなお墓なのか、いずれかであることが考えられる。
- ・運用方法は様々な手法が考えられる。東京の事例では管理者が年に1回まとめて供養し、無宗教でお花を手向けることをしている。

今後の市立霊園の整備・運営の基本的な方向性

- ・美しい霊園として整備していくことが大事である。
- ・経済、経営の視点からすると、今後ライフスタイルがどう変わっていくのか、を考える必要がある。お墓をめぐるストーリーを考えるのも良い。
- ・車で片道2時間以上かかるなど、遠方にお子さんがいる市民が相当いると思う。そうすると子供がいても墓参りに行かなくなる。これから福岡市がつくろうとしているお墓は、子どもに迷惑を掛けたくない人へのお墓であろう。
- ・福岡で生まれ育っていなくても、福岡に縁があるので、福岡のお墓に入りたいという考え方もある。
- ・霊園に見える化する必要がある。音楽祭などを通じて日頃から霊園に足を運ぶ機会を増やすことも良いかもしれない。
- ・霊園全体のランドスケープを見直すことも大切である。
- ・外国人の利用は想定しているか。国際化が進み、海外の方が福岡に住まれて、亡くなる方も増えている。海外の墓地の事例もあわせて検討してみると良い。
- ・死後の縁、死後の共同性という考えがある。